



ちょっと素敵な話

No.11

石の上にも三年

私がこの仕事に就ききっかけとなったのは、ある施設の一泊旅行のボランティアに誘っていただいたことでした。

学生だった私は、短大で福祉を専攻していましたが、老人介護と身体障害だけが福祉と思っていたので、声をかけていただいたとき“知的障害者施設の行事のお手伝い”と聞いて、知的障害者って？と思ったぐらい無知でしたが、特に調べもせず一泊旅行に参加しました。

旅行で初めてその施設の利用者さんと接したときに感じたのが“こんなに純粋な方たちがいるんだ”という印象でした。そして“この仕事に就きたい”と思っただけでした。

それからは、短大での実習先に知的障害者施設を迷わず選んだり、授業のスケジュールが空く日には、ボランティアで受け入れてくれる施設はないか、探すようになりました。

その時受け入れてくれた施設が福成会でした。

当時、新人職員が半数を占めていたにもかかわらず、学生の私を快く受けてくださったことに、今考えれば思い切ったことをされたなあと感じています。

ボランティアが縁となり、採用試験に声をかけていただき、翌年、福成会の職員となりました。

職員になった後も、もちろんボランティアと立場は違うものの、思いは変わらず利用者さんと公園へ行ったり、レクリエーションをしたり、一緒に楽しいことをしてお給料をもらっているのだろうか？”と思うぐらい、楽しく仕事をしていたのですが、そんな私も壁にぶち当たる日がすぐにきました。

ある利用者さんの介助で階段を一緒に上っていた時のこと、後ろから別の利用者さんが走ってきて

「お前なんか帰れ！帰れよー！」
と怒鳴り、私の背中を思い切り押されました。

突然のことに、介助していた利用者さんを守ることで精一杯になり、何も対応が
できず、言われた言葉にもショックを受けてしまっている私を見て、当時の園長が
言葉をかけてくださいました。

『石の上にも三年』ってあるでしょ？この仕事もそう。

一年目は何もわからず、覚えることだらけで一年があつという間に過ぎていく。

二年目に少し余裕が出て、周りが見えるようになる。

三年目にしてようやく仕事の良いとこ嫌なとこが見えるようになる。

三年経つて、この仕事が嫌、向いてないと思つたら、辞めたらいい。

三年間は頑張ってみて。」

辞めるつもりは全くありませんでしたが、三年か…長いのかなあと感じたものの、
その後、三年もあつという間に過ぎていき、勤務して十数年、今に至ります。

様々なお仕事で、「この仕事、向いていないなあ」と、辞めていかれる方もいらっしゃると思いますが、私のように前向きになるような言葉をかけてくれる人がいたら、また違った選択をされるような気がします。

私もそれ以降、壁にぶち当たらなかつたわけではありませんが、その言葉を思い出して原点に戻り、“やっぱり利用者さんに関わっていたい”と思えました。

周りに理解があることもあり、産休・育休を経て、私は今も福成会の一員として仕事を続けています。

